

警備輸送車への「襲撃ゼロ」を目指して東京警送事業部が「第1回警戒要領実技審査会」

頻発する現金輸送車襲撃事件のターゲットにされないための訓練を重ねてきた東京警送事業部で2月26日、訓練の成果を競い合う「第1回警戒要領実技審査会」を行いました。

はじめに、渡邊幸彦事業部長が「これまでの訓練は、襲撃に備えてではなく、ターゲットにされないことを目標に行ってきました。目と態度と気配りで不審者を撃退することが大切です。『CSPの警送車には、襲撃事件なし』の伝統を作ろう」と挨拶を行いました。

審査会には、同事業部と神奈川営業所から1チーム2人ずつの計11チームが参加しました。審査は、基本動作の励行と安全運転を重点に、警戒実技要領にのっとった確実な貴重品の回収・配送・警戒・迅速安全な積み降ろしについて、100点満点の減点法で行われました。

途中、貴重品の積み降ろし警戒中に、事業部員が扮する「場外馬券売り場はどこですか?」と訪ねる通行人や、警送車の周辺をうろつく不審なバイクへの警戒なども盛り込まれました。

審査会の最後に、武居澄男常務・警務本部長から「警送の仕事は、お客様に安心・安全を提供するだけでなく、CSPのブランドを守るのだという気概が必要」との訓示が、来賓の無着文雄警視庁葛西警察署生活安全課長から「若い隊員の皆さんが元気よく取り組んでいる姿に感銘しました。警備の仕事は油断を作らないことが大事です」との挨拶がありました。



「警送車への貴重品積み込みの演技」



「お客様から貴重品を受領する際の演技」